

ご挨拶

後援会長 西本 修一

神戸医療福祉大学後援会の会員及び関係者の皆様、日頃より後援会の活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。この度、令和2年度後援会会長を務めさせていただくことになりました。微力ではございますが、この一年間、新役員、委員の方々とともに力を合わせまして、精いっぱい務めさせていただきます。

また、新入生の保護者の皆さまには、ご入会を歓迎すると共に、4年間となりますが、後援会へのご協力を改めて宜しくお願い致します。

昨年度末から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、卒業式や入学式などの行事が中止となり、6月開催の後援会総会も書面開催と異例づくしのスタートとなりました。

新型コロナウイルス感染症は、現在においても収束の兆しがありません。ワクチンや特效薬がないという事もあり、社会全体が移動を抑制され、経済の停滞が起こり、先行きが全く読めないなど、人々を不安にさせています。新しい生活様式を強い得られ学業、就職に大きな不安を抱えた中、初めての経験となる遠隔授業でのスタートとなりました。思うようにカリキュラムが進められないジレンマを、学生も大学側も抱えていると思います。

そして何より新型コロナウイルス感染症の収束の目処がたたない不安と恐怖に誰もがストレスを抱えて生活をしていると思います。

しかしながらこのような苦境においても、学生たちが健康で毎日楽しく、意図する職業に就けるよう、また大学生活を送れるように、後援会は大学と連携を図り、学生の福利厚生に関する事業等を支援していきます。

また、都築学園創始者は「時代を創造する青年の個性を伸ばし、自信をつけさせて世界に送り出したい」と言われています。学生たちは、自然豊かなキャンパスで伸び伸びと勉学、課外活動に励んでいます。一人でも多くの学生が、社会福祉士・介護福祉士等の国家試験や、保健体育の教員免許取得に向けて勉学に励むとともに、専門実習を行い、自らの個性を伸ばし、人間性を豊かにし、力強く未来へ羽ばたくことを願っています。

最後になりますが、福崎町の方々は神戸医療福祉大学の学生を温かく見守っていてくれます。大学の教職員、地域の方々、そして保護者が連携し、この苦境を乗り越え、実りの多い学生生活となる事を心から願うとともに、会員皆様のご健勝をお祈りいたしまして挨拶とさせていただきます。